

	項目	はい	どちらかといえば		いいえ	課題や改善すべき点	
			はい	いいえ			
環境・体制設備	1	利用定員が指導訓練室等のスペースとの関係で適切である		3	3	1	・特任から構造化した方が 良い。子どもが7人以上や、 児発と放デイが一緒の時間 は危ないと感じる事がある。 ・スタッフマンパワー不足 ・人手が足りず忙しいが、子 どもに対する時はマンツー マンに近い対応だと思う。 ・パーソナルスペースを使 いやすくしたい。手洗い場、 トイレ他リフォームでは改善 が限界。
	2	職員の配置数は適切である	1	2	2	1	
	3	生活空間は本人にわかりやすい構造化された環境になっ ている。障害の特性に応じ、事業所の設備等はバリアフ リー化や情報伝達等への配慮がなされている		4	2	1	
	4	生活空間は清潔で心地よく過ごせる環境になっている また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	1	3	3		
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り 返り)に広く職員が参加している		3	2	1	・振り返りが職員間で定着 していない。 ・HUGが家族との連携まで 進められていない。 ・スタッフのスキルアップ。 研修に参加するスタッフが 偏っている。
	6	保護者に対して事業所の評価アンケートを実施し、保護者 の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	3			
	7	事業所向け自己評価表及び、保護者向け評価表の結果を 踏まえ事業所として自己評価を行い、その結果による支援 の質の評価及び改善内容を、事業所の会報やホームペー ジ等で公開している	4	3			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につ なげている		2	2	2	
	9	職員の資質向上の為、研修の機会を確保している	2	4	1		
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課 題を分析したうえで、個別支援計画を作成している	5	2			・保護者のニーズを領域に 照らし合せて「目標」として いるが、支援内容につなげ ていく事が難しい事も多い。 職員がその利用者に対し 同じ対応をする事は、互い に声掛けをしていかないと 難しいと思う。 ・チーム立案する時間が不 足
	11	子どもの適応行動の状況を図るため、標準化されたアセス メントツールを使用している	2	3	1		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援のガイドライン「児 童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及 び移行支援)、家族支援、地域支援」で示す支援内容から 子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、 具体的な支援内容が設定されている	4	3			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	2	5			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている		5	1	1	
	15	療育プログラムが固定化しないよう工夫している	2	1	4		

	項目	はい	どちらかといえば		いいえ	課題や改善すべき点	
			はい	いいえ			
適切な支援の提供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成している	2	5			・個別の活動への取り組みの方が多。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		2	4	1	・朝の申し送り・確認が定着していない
	18	支援終了後には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い気付いた点等を共有している		2	4	1	・振り返りの共有そして記録が(HUG導入後特に)出来なくなってしまっている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	1	2	3	1	・「こうだったね」だけでは振り返りにならず、記録が必要。カードックスの時より記録が少ない。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	4	3			
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその児童の状況に精通した最もふさわしい者が参加している	3	2	1	1	・担当者会議に出席出来ない。またどのように行われているのかが見えない。参加後、次につながっていない。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか		5	2		
	23	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合、地域の保健・医療、障害福祉、保育・教育等の関係機関と連携した支援を行っている		3			・会議が開催された時は出席している。
	24	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合、子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		3			
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図り連携をとっている		5	1		
	26	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		5	2		
	27	保育所や認定こども園、幼稚園、小学校との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			5	2	保育園との定期交流を、またはじめたい
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	2	5			・懇親会も良いが、講演会(先輩ママの話聞く等)もよいのでは
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		3	2	2	ペアレントトレーニングが出来ていない

	項目	はい	どちらかといえば		いいえ	課題や改善すべき点
			はい	いいえ		
保護者への説明責任等	30 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	2	1		<p>・送迎時の聞き取りだけでなく、とんとんに足を運んでもらい、時間を作って話をする機会がもっと必要。</p> <p>・参観、運動会等だけだと限られている。もっと交流しやすい場を作っていきたい</p>
	31 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5	2			
	32 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	2	3	2		
	33 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		4	2	1	
	34 保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整えるとともに周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	3	4			
	35 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を保護者に対して発信している	3	4			
	36 個人情報の取扱いに十分注意している	6	1			
	37 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	2			
非常時等の対応	39 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	3			<p>・緊急時のマニュアルは作成しているが、訓練(避難訓練以外の)は少ない。</p> <p>・ヒヤリハットの記入が少ない</p> <p>・身体拘束簿の記入忘れがある。(拘束自体が少ないからか)</p>
	40 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	1			
	41 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	6	1			
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	1			
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	2			
	44 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	2	4	1		
	45 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3	3	1		